
晴れの日と雨の日

蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

晴れの日と雨の日

【著者名】

N4719N

【作者略名】

蓮

【あらすじ】

出会いはナンバー！？恋に無関心な葵。しかし、そんな葵にも……

「れが出会いー! ? 1 (前書き)

甘くなるのがまだ分かりませんがお願いします。

「これが出会い！？」 1

「ねーねーそこの可愛い子たちと一緒に俺等と遊ぼーよ！」

うわーナンパかよ。

うつによつてこんな時につけ

月曜日はパン屋さんで大好きなドーナツが売られる日。毎週のよう
に通っちゃてるから、店員さんに顔を知られている。

そのドーナツはこの辺では人気。

だからけつじつ長い行列。

そしてあたしたちはその行列に並んで、順番が早く回ってきてつて
楽しみに待っていた。

もちろん、あたしたちはそいつ等に無視をする。

だって面倒じやん。

下校して私服に着替えてきたからそいつ等はあたしたちが高校生っ

ての分かつてんのかなあ。

「あれー無視されてるー
まあいいか。また後で遊びまつ」

やつ言つてやつ等はあたしたちから離れていった。

また後でつて。もう会わなーから。

「やつ並んでた時に絡んできたやつ等可だつたんだひつね?」

この子は沙羅。^{しゃり}あたし、葵^{あお}と同じくらこの背丈。あたしより頭^が高い。でも、力、ならあたしが勝つ。

「あつこつやつ等はナンパとかしか出来ないんだよ。てこつかこのデータツ美味いつ」

「ナンパしか出来ないって…けつ」じりじりと壁づね、葵はつ

「この子の言つ通りー葵ちゃん?だっけ?そんな寂しいこと言わな
いでもあ~俺等と遊ぼーよ」

あたしたちはその声のする方へ田を向ける。

そこにはそいつ等がいた。

今噂していたさつきのやつ等。人数は一人で一人とも短髪。

なんでいる?

そして何故かそいつ等はにやにやと変な笑みを浮かべていた。

これはなんかヤバいかもしね。
流石のあたしでも気付く。

すると

「痛いっ」

いきなり乱暴に腕を掴まれ、引っ張られる。

「何すんの」

「へ？ だーかーらー遊ぶんだよ 」

目の前のそいつとあたしと同じように沙羅の腕を掴んでいるそいつ、二人の顔、どつかで見たことがあるような……ないような……。

嗚呼、今日は大好きなドーナツが食べれた、良い日つまり晴れの日だつたのに……。

そいつ等の所為で最悪な口、歯の口になってしまった。

そいつ等の所為で……。

「放せ」

「うん? 何か言つた?」

なんだ! そいつ。聞こえてるはずなんだけど。

「だーかーらー放せつて言つてんの」

と、言つたと同時に掴まれていた腕を引き、掴まれていない方の手でそいつの顔を殴る。もちろんグーで。

隣の沙羅も腕を掴んでいたやつを殴っていた。

「ここで何すんだよ

怒っているみたいだ。そりやそりだ。今から樂しまつとしていたのに殴られたから……ね。

「それはいつの話だ。

「セツセツ。女の子にこんな風に接したら嫌われちゃうよーって
いつかあんたたち彼女いないでしょ？」

沙羅…怒りが爆発しきやつたかな？

「へんなセーヨ。さつきから聞こへりや…むかつくんだよー」

わつかあたしの腕を掴んでいたそいつが『むかつくだよ』と同時に沙羅に殴りつけようとしていた。

でも、そいつの望みは叶わなかつた。

あたしに加えて沙羅にも殴られたそいつのもとにはもう一人の方の男がいた。

さつき沙羅の腕を掴んでいた人だ。

その男は

「帰る」

その一言だけだった。

2発も殴られたほうのそいつは素直にその男に従つて帰つて行つた。

「何なの？あれ」

沙羅はかなり怒つているみたいだ。

「さあーでも、さつきの一人どつかで見たことない？」

どつかで見たことがあるようなあ。

「はつ？ いつへビ」で？」

やはり沙羅はかなり怒っているみたいだ。

「だよね。人違いだよね」

でも、やつぱどこかで……

そういういえば沙羅を掴んでいた人、『帰ろ』の一言しか話していないし、殴られた筈なのに殴り返そうとしない。

不思議な人だ。

この日、寝るまでその人のことばかり考えていた。

突然ですが、あたし水川葵^{みずかわあおい}。高2の17歳。自分で言つのも変ですが一応喧嘩強いです。その所為で沙羅に男っぽいって言われる。

その通りだと思います。スカートとか女の子っぽいものを身につけられない。

そのかわり沙羅は喧嘩の時はすっげ汚い言葉使つてゐるけど、普段は普通の女の子。恋だつてしてる……らしく。

らしこの人はあたしたちは『いいばな』しないから。あたしが恋に無関心で沙羅の話をきちんと聞いてあげれない。

『恋に無関心すぎる』って沙羅が呆れていた。

でも、本当に恋つてよく分からない。

次の日、

昨日買ったドーナツを食べながら沙羅と登校。沙羅と毎回の口ひつけ一緒に登校している。

沙羅と2~4の教室に入り、自分の席に向かおうとした時

「お前らなんで顔に傷あんの?ナンパしようとしてたんじやねーのかよ」

「ナンパしてたけど、つまといかなくてさあ最後に声かけた女に殴られた

「ぶつはは。女に殴られたのかよ。だっせえ」

「うるせー。それに俺等みみたいなやつはナンパとかしか出来ないって言つてたし…今度会つたらタダじゃおかねえ。なつトキ」

「俺はバス。章太、一人で行つとけ、もう殴られたくない」

「この生徒、ナンパやら何やら普通こやつてる。どんな学校だよ。

……？ 昨日ナンパした女に殴られた？『俺等みたいなやつはナンパとかしか出来ない』？

……あれ？ そういえば昨日ナンパしてきた男、殴った。『ナンパとかしか出来ない』ってあたし言つたような言わなかつたような……

もしかして？

そう思い、声のする方に目を向ける。

口の近くに血つぽい赤いのが付いてて短髪の男が一人いた。

昨日の人たち？

「何、怖い顔してるの？」

「あつ沙羅」

「なになに～恋でもしちゃったかあ？ あ、お、いぢやん！」

「違つて……昨日わあナンパしてきた男、殴つたじやん？ もしかして……」

「もしかして？」

「ほら～やつぱり

『もしかして…あの人たちじゃない?』と言おうとした時、「あの人たち、があたしたちの前までやつてきていた。間違いなく昨日の二人だ。

「覚えてる? 昨日のさあ」

すると沙羅も気づいたらしく

「あーーー！」

「昨日はどうもっ、つて言つ」ことであよつと来い

笑つてるけど、田は笑つてない。

さつき一人と話してた人たちがヒューヒューと言つている。

嫌だつて言つたらもつと面倒なことになりそうと思つたあたしたちは素直に一人に従い、ついて行つた。

着いたところは誰もいない相談室だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4719n/>

晴れの日と雨の日

2010年12月4日13時50分発行